

登山 月報

JMSCA

登山月報 第639号 令和4年6月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

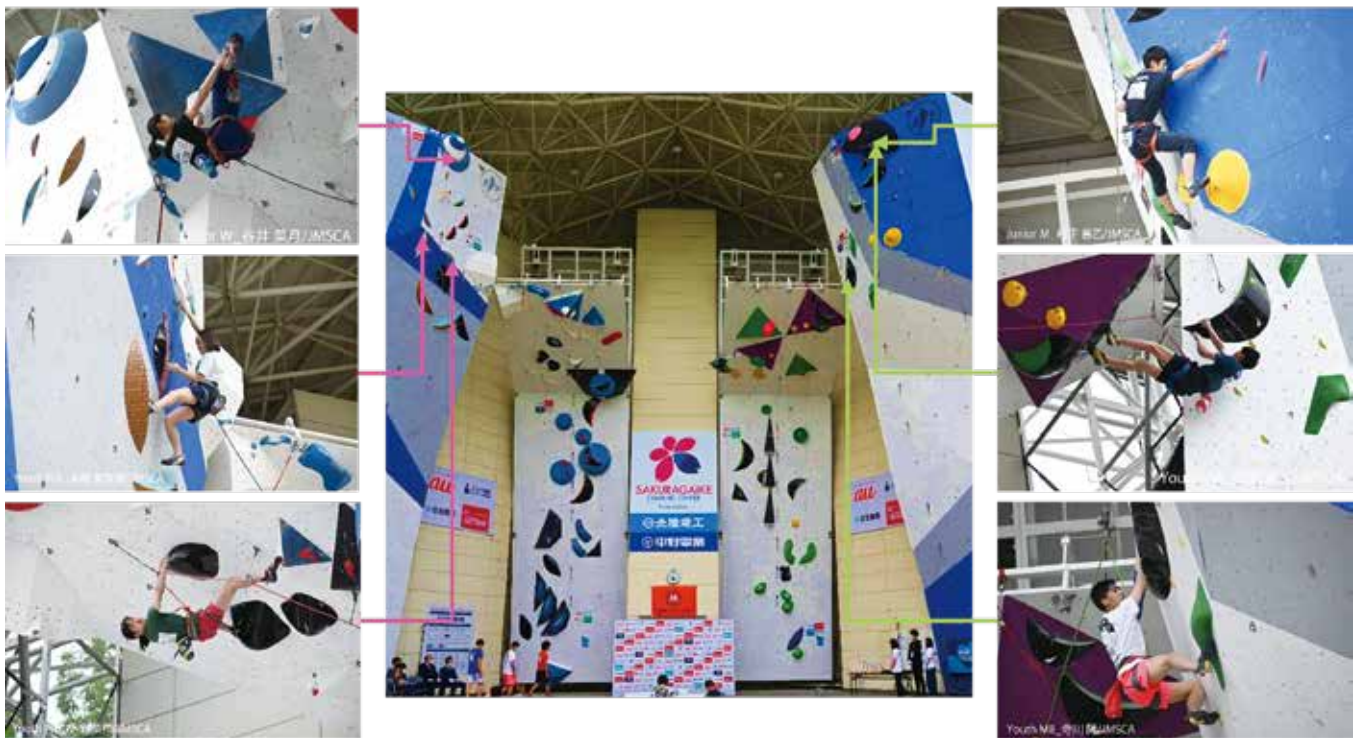


ウェスタン・クウム

8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の日」
全国「山の日」協議会
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

第10回リードユース日本選手権南砺大会報告	2
群馬県開催 令和4年度 登山部指導委員会 冰雪技術研修会、 A級主任検定員養成講習会、山岳コーチ2 養成講習会報告	6
Enjoy Climbing	8
映画紹介「アルピニスト」	9
鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動	10
寄贈図書	10
JMSCA	11
JMSCA 保険（日山協山岳共済会）のお話し	13
表紙のことば、編集後記	14

No.639



第10回リードユース日本選手権(L J C 2022)を5月14-15日に富山県南砺市、桜が池クライミングセンターにて有観客で開催。ここに来て、コロナの感染防止の緩和が出てきており「大会COVID-19感染防止ガイドライン」の見直しを行い「ワクチン検査パッケージ」による入場管理を実施。

昨年の第9回では、「全員PCR検査陰性」「1密でも防止」だったことを思えばかなり軽減された感じ。そして昨年は学校の規制もあって参加できない選手もあったが、今年は昨年より18人増の244人が参加。

5月14日予選 7:00-21:10

5月15日決勝 女子7:30-12:30 男子11:30-16:10

1. 競技

ジュニア	女子20人	男子26人
ユースA	女子34人	男子47人
ユースB	女子57人	男子60人

大会が近づき天気予報では荒天が予想されており、ルートセットは雨の影響を受けにくいように内側に行う。予選は、予報通り午前中雨となり今までにない雨量であったため動線を変更。翌日は曇りで、気温11-18℃のクライミングにはベストのコンディション。

決勝は、男女ともに桜が池名物のナガモノ、渡りルート。最初に女子を実施。ユースBではY F C 2021優勝

(当時はコースC)の小田菜摘が高度39で優勝する。ただタイムアップでの終了となり、まだ上に行ける雰囲気を残しながらのストップで残念でしたが今後が楽しみな選手。ユースAでは、永嶋美智華、抜井美緒、武石初音が高度40+で並ぶがカウントバックで永嶋が優勝。そして、ジュニアでは谷井菜月が、さすがのパフォーマンスで最終ホールドにタッチの高度46+で優勝。

男子決勝では、コースBなかなか渡りを通過できない選手が続くなか最後に登場の寺川陽が渡りを通過し高度32で優勝。ユースAでは、昨年ユースBで優勝した安楽宙斗がTop手前の高度42まで迫り優勝。渡りまでのパワー系ムーブ、渡ってからのバランスムーブそれぞれを確実な登りでこなし。そしてジュニアでも確実な登りで安楽と同じ高度42を獲得した村下善乙が優勝した。

今年は、世界コースがアメリカで開催。日本の選考は、L Y C 2022とB Y C 2022の成績を掛け算で算出。L Y C優勝の意義は高い。選手のパフォーマンスにもそれを感じる大会となった。

コロナも3年目、収束の方向に向かっている状況、withコロナを取り入れた企画で開催しました。無事終わることができ開催地、施設、富山県山岳連盟、選手、スタッフ、協力会社、協賛様にお礼申し上げます。

女子 ユースB		決勝	予選	予選高度
順位	姓名	高度	順位	Bルート
1	小田 菜摘 W B45	39	1 35+	41+
2	村越 佳歩 W B46	38+	3 32+	40+
3	関川 愛音 W B27	38	2 32	41+

女子 ユースA		決勝	予選	予選高度
順位	姓名	高度	順位	Bルート
1	永嶋 美智華 W A09	40+	2 34	41+
2	抜井 美緒 W A01	40+	3 33+	41+
3	武石 初音 W A29	40+	6 27+	41+

女子 ジュニア		決勝	予選	予選高度
順位	姓名	高度	順位	Bルート
1	谷井 菜月 W J20	46+	1 TOP	TOP
2	高尾 知那 W J13	41	2 35+	TOP
3	柿崎 未羽 W J15	41	4 34+	41+

男子 ユースB		決勝	予選	予選高度
順位	姓名	高度	順位	Bルート
1	寺川 陽 M B05	32	1 32	26
2	山田 航大 M B47	30	2 33	24
3	西尾 洸音 M B08	22+	5 19+	24

男子 ユースA		決勝	予選	予選高度
順位	姓名	高度	順位	Bルート
1	安楽 宙斗 M A26	42	1 TOP	36+
2	小俣 史温 M A30	40+	2 41	35
3	猪鼻 碧人 M A31	34+	9 24+	26+

男子 ユースC		決勝	予選	予選高度
順位	姓名	高度	順位	Bルート
1	村下 善乙 M J01	42	3 22	35
2	関口 準太 M J09	37	1 40	27+
3	鈴木 音生 M J24	35+	5 22	33+



2. 運営

2-1. 来場数

選手244人、同行者197人、トレーナー5人
 スタッフ99人、VIP／視察5人、メディア3人
 観戦132人 計553人

2-2. コロナ対策

	ステージ4	ステージ3	ステージ3-2	ステージ2	ステージ1
	感染爆発	感染急増	感染急増	感染急増	感染ゼロ発生
	医療体制機能不全	医療供給体制支障	医療供給体制支障	医療供給体制支障	医療供給体制支障
観戦	緊急事態宣言	緊急停止措置	高感染(医療逼迫)	高感染(医療安定)	低感染(医療安定)
入場	無観客	有観客(定員)	有観客(定員)	有観客(定員)	有観客(定員)
検温抑制	マスク着用	マスク着用	マスク着用	マスク着用	マスク着用
感染防止	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底
消毒	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底	手洗い、消毒徹底
換気	30㎡/h・m	30㎡/h・m	30㎡/h・m	30㎡/h・m	30㎡/h・m
CO2管理	平均800ppm以下	平均800ppm以下	平均800ppm以下	平均800ppm以下	平均800ppm以下
3密防止	入場ゲート、時間差	入場ゲート、時間差	入場ゲート、時間差	入場ゲート	入場ゲート
観戦	選手：4㎡・人	選手：4㎡・人	観戦：座席間1席	観戦：座席間1席	観戦：座席間なし
飲食	禁止	禁止	禁止	専用エリア	専用エリア
選手	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担
同行者	健康チェック(2W)	健康チェック(2W)	健康チェック(2W)	健康チェック(2W)	健康チェック(2D)
スタッフ	V/T実業負担	V/T実業負担	V/T実業負担	V/T実業負担	健康チェック(2D)
YIP	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	健康チェック(2D)
業者	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	健康チェック(2D)
メディア	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	V/T自己負担	健康チェック(2D)
観客	健康チェック(2W)	健康チェック(2D)	健康チェック(2D)	健康チェック(2D)	入場検温

*会場での感染防止対策は継続。ワクチン(3回)／検査パッケージによる入場管理を実施。

		ユースB	ユースA	ジュニア
ミテル登録	男子	88%	87%	73%
	女子	57%	97%	90%
ワクチン接種	男子	8%	46%	34%
	女子	21%	17%	50%
スタッフ、観戦者		73%		

2-3. 会場レイアウト



*昨年より会場観戦エリア150人プラス。

2-4. 中継

Youtube: Live 女子686(昨年450)、男子661(昨年410)



*昨年より視聴は増加傾向

2-5. スタッフコメント

濱田健介 (チーフルートセッター)

⇒今回の大会で一番意識したことはなんですか。

濱田：まず、一番大きな変化はルートの安全性を今まで以上に意識したことです。気になる箇所では実際にフォールテストを行い、危険性があった場合、クイックドロウの増設やブルークロスなどで対応した。また競技前に審判長、主任審判と共に最終チェックを行いました。

⇒必要なことですね。この頃の世間で起きている事故など見ると安全第一を改めて感じますね。

⇒ルートセット全体ではどうですか

濱田：次にルートの内容ですが、雨天の影響を大きく受けることとなったことでしょうか。大会当日が雨予報であったため、予選決勝ともに両側の固定壁は雨の影響を受けにくい内側にルートを作成した。また最悪の場合、決勝が中止となることも想定されており、予選ルートのみでリザルトをつけることも考え、予選ルートは必然的に難し目の設定となった。

⇒桜が池は、けっこう特異点で、よそが雨でも降らないことが多かったのですが今年の予報はかなり悪い感じでしたね。

濱田：大会当日の実際の天気は思ったほど悪くなく、雨も予選の午前中のみとなり、ほぼ問題なく大会が進行出来た。

⇒よかったです。

濱田：細かいルートの内容については、セッター6名の内、4名が昨年と同じメンバー（濱田、伊藤、徳永、渡邊）となったことで、昨年の反省点、改善点を明確にフィードバックすることが出来ました。

特に女子決勝では昨年多くのタイムアップが見られたが、下部をスムーズに登れるように意識したことでタイムアップとなった選手はかなり減ったように感じます。細かい反省点は多々あるのだが、全体としては内容、リザルトともに上手くいったのではないのでしょうか。



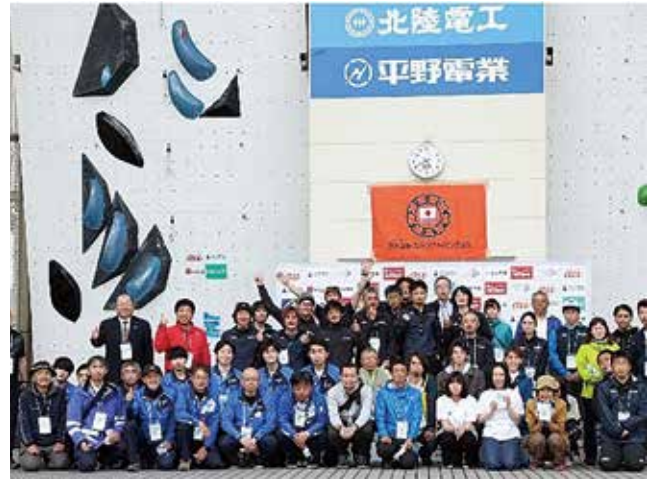
⇒運営全体で感じることはありますか

濱田：今回一番感じた改善点はルートセットとは直接関係はないのだが、予選の競技時間の長さだろうか。特にジュニアカテゴリーの選手は競技時間が夜遅く、コンディションも非常に悪い中での競技となり、本来の実力が出し切れなかった選手もいるように感じた。参加人数を少なくする、大会を3日間とする、などの対策を来年に向けて協議していく必要があるのではないだろうか。また、予選終了後の決勝セットは毎年深夜作業となり、作業の安全面、ルートの安全面などを考えるとこちらも改善していく必要があるように思われます。

⇒そうですね。今回ユース世界大会の選考を基に日程を決めています。以前夏休みで行っていた時は、3日を確保できましたが通常の間では難しいですね。ただ、今回予選が終わって、ルートセットが午前3時までかかったこと、他のスタッフも朝早くからの業務が続き改善が必要なことは事実です。検討していきたいと思います。

杉山将崇 (デリゲイト)

5月14日、15日と無事に第10回リードユース日本選手権南砺大会を開催する事ができた。この大会の前にはリードのジャパンカップが印西で行われたのだが、直前のクリップなしに大きなランジに突入した選手がフォールした際、壁からはみ出て振られ落ち、柱に衝突する事故が何件か起こった。クライミングというスポーツ自体が危険性を孕んでいるのは周知の事実ではあるが、大会をコントロールする身としては安全性を配慮しつつ選手に最高のパフォーマンスをして欲しいと常に意識をしている。しかしながら、選手は選手であと一手が出せるかどうかで次のステージに進出できるかもしれないと思うと、一心不乱に先を目指す事(安全性よりも優先して)もあるだろう。自分もコンペでは岩を登るよりも思い切って手を出すことも往々にしてある。そんな事から現行のルールではブルークロスを含め、安全に関する項目が各所に散りばめられている。



今回の大会より、ルートセット作業はもちろんのこと、ルートについても安全性を確認するオペレーションを増やした。具体的には現行のルールに記載されている安全に関する項目をまとめ、チーフルートセッター・審判長・主任審判で、選手が登る前に全ての項目について満たされているか確認するというものである。そのため、各ルートにブルークロスが存在したり（ルートによっては2箇所）、フォールテストを入念に行ったりした。結果的には救護を呼ぶ案件が一件もなく、スケジュール通りに全ての行程を終える事が出来た。心からスタッフ、セッター、審判、その他多くの関係者、もちろん選手にも感謝したい。

まだまだ完璧な大会とは言えない部分もあるのだが、毎度トライアンドエラーを繰り返しながらも一歩ずつより良い方向へ進んでいるように感じる。今のクライミングコンペションはスポーツとして醸成する途中段階、つまり変遷期真っ只中だろう。そのため各方面で四苦八苦しながらも懸命に前進しようと尽力して下さる方々にいつも脱帽させられる。自分もその前進の一助になれるようテクニカルデリゲイトという役割として邁進していきたい。

西谷善子

(強化委員会 副委員長・ユース日本代表ヘッドコーチ)

初日は雨で予選ラウンドが流れる可能性があったため、例年よりやや難しめのルート構成だったようですが、本大会はユース国際大会派遣の選考大会でもあるので、今回設定された距離感や強度のルートで選手のパフォーマンスを測れたことは、世界ユース選手権大会派遣選手を選考する上でも非常に良かったと感じています。今年は各カテゴリーにおいて、これまでユース日本代表に選考された経験のない選手や様々な都道府県の選手の活躍の様子が窺え、全国的にユース選手の強化が進んでいる印象を受けました。

また、今年度より強化委員会では、新たな選手強化の仕組みとして『ユース強化選手制度』を導入し、本大会で2022年スポーツクライミングユースリード強化選手が決定致しました。「2028ロサンゼルスオリンピック、さらにその先のオリンピックでメダルを獲得できる選手を育成強化し、恒久的に多くの日本選手が世界で活躍できる場を創り出す」という目標達成に向けて、ユース選手の強化枠を広げ、これまで年に2回程度の強化合宿しか行っていなかった体制から、定期的に各シーズンの目的・内容に合わせた練習会や合宿を開催し、年間を通してユース選手の強化を図っていく体制へと切り替え、動き始めています。本大会は全カテゴリー共通のルートのため、年齢差の出やすいパートで選手それぞれの動きを把握することができとことで、各カテゴリーの強化を考える参考となったので、今後の強化練習等に活かしていきたいと思えます。

今後の予定としましては、本大会と6月11・12日に開催される第8回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会(BYC2022)の結果をもとに、2022年ボルダリングユース強化選手および2022年世界ユース選手権大会(アメリカ)派遣選手が決定する予定です。

悪天候で大会開催が危ぶまれた中、選手の安全に配慮し実行して下さった大会関係者の方々はじめ、コンディションが悪い中でも自身のパフォーマンスを最大限発揮してくれた選手の皆様に感謝致します。



【イメージ映像】

<https://youtu.be/M2PGFTM51Ko>

【2022年スポーツクライミングユースリード強化選手】

<https://www.jma-climbing.org/article/2022/05/23/2022-youth-lead-athletes/>

群馬県開催 令和4年度 登山部指導委員会 冰雪技術研修会、 A級主任検定員養成講習会、 山岳コーチ2養成講習会報告

令和4年4月29日(金)～30日(土)

群馬県谷川岳において冰雪技術研修会およびA級主任検定員養成講習会、コーチ2養成講習会が群馬県谷川岳土合山の家および白毛門沢出合いにて開催された。

今回は研修4名、A級主任検定4名、コーチ2養成講習3名、講師3名、群馬県スタッフ2名の計15名での開催となった。

新型コロナウイルスの流行も終息のめどが立たない中でしたが、鳥取県大山の開催が中止になり、例年実施していた富士山での開催を谷川岳に変更して、ソーシャルディスタンスを取りつつ、ワクチン2回以上の証明提出、事前の体調チェック、検温記録を必須としかつ宿泊は土合山の家で1人1部屋、懇親の場も設けず感染リスクを極力避けた態勢で開催されました。前月の3月に埼玉県での登山技術研修会実施の際、主任検定継続受講者が多かったせいで今回は少人数ながらも充実した講習が行われたものと思います。

今回は、富士山で実施の際に、スバルライン開通が当日にならないと分からないリスクと山小屋での密な状態を避ける為、初めて谷川岳周辺と土合山の家での開催となりました。群馬県山岳連盟の皆様には、大変お世話になりありがとうございました。今後の開催につきましてもしくはこのようなスタイルでの開催が続くと思いますがコーチの全国での養成講習会の開催を期待しました、冰雪技術の向上も図りたいと思います。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(記：指導委員会 野村)

受講生感想

北海道山岳連盟／斜里山岳会 滝澤 大徳

主任検定員の資格更新のために旅路についた時、北海道斜里町の桜は咲きそろおうとしていた。しかし、今年はややく咲いた桜を愛でようとするものはいない。4月23日に起きた観光船事故による多くの死者、行方不明者への祈りで知床のまちは静かに頭を垂れ、上空を通過する捜索のためのヘリコプターの爆音が日常になるうとしていた。

講習会への道程、海難事故と山岳遭難事故という違いはあるのだが、安全な登山を実践して指導していく山岳コーチとその検定員として、リスクのアセスメント、マネジメントについて考えざるを得なかった。装備点検、



天候判断、意思決定、危急時対応、事故発生後の対応、そして人材の育成など、研究をしなければならないことは多いだろう。羽田空港からJRを乗り継いで移動する間は葉桜も終わっていたが、会場のみなかみ町周辺の桜は盛り。地元を離れて一足早く満開の桜に出逢えて気持ちも上向く。

新型コロナウイルスCOVID-19感染症対策で屋内講習は各自の席を離し、また机には透明な衝立でも置かれた状態で行われた。この講習会自体、以前は富士山吉田ルート五号目周辺と佐藤小屋を会場に行っていたものだが、コロナ禍による感染拡大防止策を取らざるを得なくなったことから、谷川岳となったものである。屋外研修は計画では谷川岳マチガ沢や天神平を会場としていたが、一日目の午後には雨が降ることとなっていたので、白毛門駐車場から奥に入った沢あいにはわずかに残る雪の斜面での実技講習となった。二週間前までは車道の脇も高く雪が残っていたが急激に融けたようだ。

今回の講習会は「冰雪技術に関する指導員の教育と研修会」「主任検定員養成講習会」「コーチ2養成講習会」の3つが並行しての開催だったが、実技講習では主任検定員受講者2名とコーチ2受講者3名はでペアを組んで、各実技の目的や手順などを解説して確認していった。雨に濡れて宿泊先の土合山の家に戻ったが、温泉ありがたい。部屋も感染症対策のため一人一室が基本になっていた。

二日目朝まで降り続いた雨も講習開始時には上がり、澄んだ青空と凍とした空気となった。検定である。限られた時間で検定を行うためのポイントなども説明を受けた上で検定を受けると、雪氷用具、雪上歩行、滑落停止と耐風姿勢、積雪期の隔時登攀と滞りなく進んでいく講師の動きに無駄のないことが改めてわかる。受講者はとうややはりコーチ2受験者はテクニックはあるのだろうが、それを解るように見せて説明するという経験が不足しているのが見てとれる。自分に合っていると考えるコーチのレベルを一発受験できるようになったことはメリットもあるが、正確な技術の修得と登山経験、人に伝える技術、は場数を踏んでいくことが必要であり、こればかりは積み上げていくしかない。また、これからコーチを目指す者にその機会を作らなければならないと改め

て思った。

谷川岳も姿を見せる好天の下、予定の時間で講習は完了。桜の花びらの



舞う中で解散となった。新型コロナウイルス感染防止対策、従前と変わってきている積雪、融雪などの自然環境など、講習会を開催するための条件は厳しくなっているが、オンラインだけでは修得できない貴重な機会である。今回参加の機会をいただけたことに感謝するとともに、習得したことは本年予定されている北海道でのコーチ2検定でさっそく還元することしたい。

広島県 萩田 純代

毎年2回、鳥取大山と富士山で開催されていた冰雪技術研修会ですが、コロナ禍の中、令和2年2月の大山を最後に中止を余儀無くされました。この度も中止が危ぶまれる中、コロナ感染状況を注視しながらのご判断、講師の方々やスタッフの方々のご尽力で、出来る限り細心の感染防止対策を徹底することで開催されました。

この度は、積雪期レスキュー講習会のゲレンデでもある群馬県みなかみ町土合(谷川岳の山麓)に変更されました。残雪の谷川岳を背景に、桜・花桃・土筆など、萌える野山は大変美しいものでした。2週間ほど前には積もっていたという雪はアツという間に解けてしまい、再度実技の講習場所探しなどもなされたとのことでした。

初日29日は午後から雨天の予報が出されていて、昼食後は戸外での実技講習予定でしたので、雪山で雨に降られてしまうのかと、それが気掛かりでした。

10:00より開講式、蛭田講師による冰雪技術についての机上講習、堤講師によるスタンディングアックスビレイの模範実技と続きました。コロナのせいにする訳ではありませんが、この2年間は山もそこそこ、それ以上に雪山は数える程と、惨憺たる気分でしたので、安全確実な技術を伝えるべく指導者として、講習を聴くも見ても、知らぬ間に真剣になっていました。

昼食後、主任検定員養成とコーチ2養成講習会の受講者は、雨が降らない内にと早々にゲレンデに出て行かれました。我々堤講師の研修会チームも、重い雲の下、宿泊の「土合山の家」と土合駅に挟まれた川の残雪の土手傾斜面で実技講習をすることになりました。

滑落しない歩行技術、スリップ時に初動で止めるピッケルの使用法(身体を反転せず横向きになりピッケルで制動をかける方法)、スタンディングアックスビレイの構築・確保までを繰り返しました。緊急時に手早くシンプルで安全なロープワーク、カラビナの種類と用途の違い、ブリッジプルージックの作り方とその効果など、

このスタンディングアックスビレイの構築・確保の中には、様々なロープワークの要素が含まれているように思いました。

終了時にはずぶ濡れになっていましたが、立夏まじかの雨は震える程の寒さではありませんでした。

30日は予報通り雨は止み、朝食後、戸外での実技講習のため「土合山の家」玄関前に集合。出発前に体調・装備などの確認を行いました。これを習慣化することは重要なことであり、パーティー全体を安全登山に導くために必ず行うことと堤講師は念を押されました。

研修場所は「土合山の家」から北に徒歩10分程の、妙な名前のハナゲの滝手前周辺。滑落停止訓練には程よい高さの残雪の傾斜面。雪質は前日の雨の影響も気にならない程度の状態でした。

午前中は耐風姿勢のとり方、それに続きスタンディングアックスビレイの復習。徹底して繰り返し行なった結果、初めての方も一様に出来るようになりました。これは堤講師のマジック講習法なのでしょう。また受講者数に応じて、1本のロープをM型で使い、手元で猿まわしの様に手繰りながらの講習法にも驚きました。

昼食は爽やかに晴れた空の下、谷川の山々を望みながら、「土合山の家」ご自慢のわっぱ飯弁当をいただきました。

今回最後の講習は滑落停止訓練。まずはアイゼン装着なし・ピッケルなしで全身で雪をかき集め、雪のブロックを抱え込み、滑落を止めるという方法。

二つ目は、一般的な上向きからうつ伏せになりピッケルで制動をかける方法と、頭から滑落し回転しながら頭を上に戻しうつ伏せでピッケルで制動をかける方法。中々荒っぽい指導法ながら、皆さんは恐怖を克服しつつ短期間で上手く出来るようになりました。今回はアイゼン装着をせずに行いましたが、装着していて雪面にアイゼンの出刃が引っ掛かるなど想像するだけでゾッとしました。滑落しないことが一番なのですが、実際に滑落すれば初期制動ができるがどうかで決まると聞いていますので、あらゆる状況を想定して練習しておく必要があるのだと改めて思いました。今回も有用な訓練をさせていただきました。今後も出来る限り自らの技術や知識を深めて行きたいと思っています。

講師の皆様、群馬県山岳連盟の皆様、土合山の家の皆様、参加された受講者の皆様、本当にお世話さまになりました。ありがとうございました。



佐藤裕介

瑞牆山の現人神は瑞牆では珍しくルーフを持った強傾斜のクラックで、見る者を圧倒する。

2004年夏号のロクスノに掲載された初登時の記録を読むと南浦さん、菊地さんと言うレジェンド達と共にトライしているのに女性である南浦保恵さんのみが完登・初登している。記事もその事に触れており厚い男性にはかなり難しいルートというイメージが強かった。

しかし再登者が増えると実はクラック左にあるホールドを使用しシンハンドを回避してフェース的に登れることが分かってきた。そうして登るクライマーがむしろ一般的になりグレードも5.12bほどと言うことだった。

しかし、現人神の魅力が色褪せるわけではなく私にとって長い事憧れていたクラックの一つだった。

初めて訪れたのはもう15年程前。アップがてら取り付いた隣の「人間宣言5.12s」に苦戦している間に、雨が降ってきてお預けとなった。

それから通り過ぎる度に、見上げては状態が悪いか、まだ自分の実力的に早いとか先延ばしにしながら大事にオンサイトを長い間狙っていた。

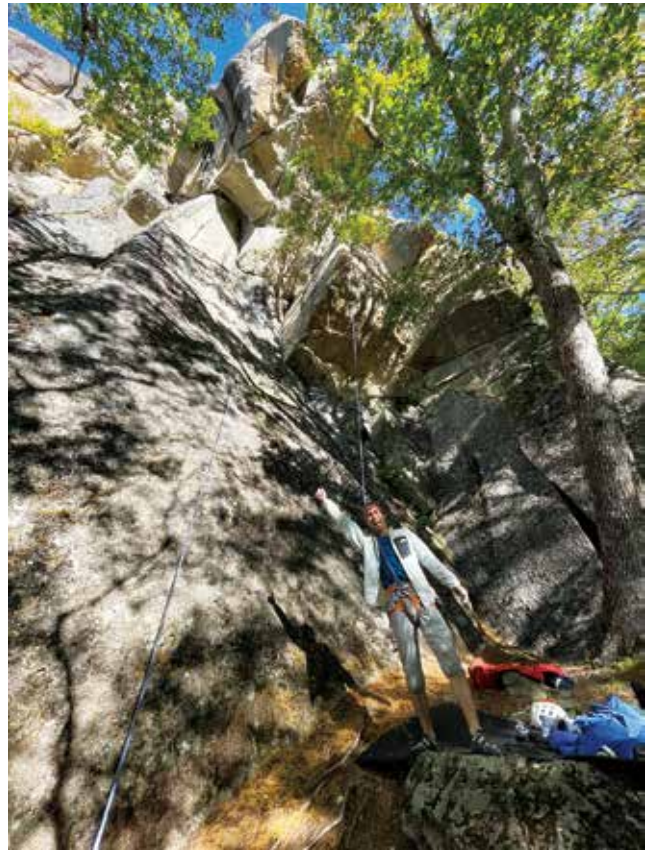
*

たかが5.12bのオンサイトである。5.12bのジムルートであれば現代の鍛えられたクライマーならアップグレードだろう。しかし、瑞牆周辺でオンサイトを狙えるような5.12代のクラックと云うのはそれほど多くなく貴重な一本だ。花崗岩のクラックは特に一つ一つ大事にトライしたいと思ってきた。小川山の流れ星(5.12c)やローリングストーン(5.12d)もまだ実力不足かなと思いトライできずにいる。

*

私はオンサイトが大好きだ。基本的に初見のルートの場合はオンサイトするつもりで取付いているはずだ。外岩でオンサイトできそうにないと最初から思っているルートに取り付くことは稀で、鳳来で高難度スポーツルートを楽しんでいた時と、マーズ、情熱の薔薇、千日の瑠璃などの5.14代のルートをトライした時ぐらいではなからうか。

今回の現人神のトライは、厳密な意味でのオンサイトでは無いと思う。瑞牆トポの写真を私は熱心に見て、トライ前数日はその写真をスマホの待ち受けにしていつ



現人神5.12b オンサイト直後の筆者 撮影北平友哉

も見ていた。登攀者の登りを見ている時点で本当のオンサイトとは言い難い。本来の意味合いからすれば、トポからグレードを知ったうえでトライするクライミングもオンサイトとは違うはずだ。「このルートは5.11aだからこんなムーブは出てこないだろう」とクライマーは違うムーブを探りなおせる。私が心の底から本当のオンサイトと思えるのは、アルパインの未登ルートでルートを切り開いている時に限られる。

「このラインは、本当に人間に登れるのか？」と不安にかられながらも突き進む時の別次元の真剣さを私は知っている。それが本当のオンサイトだと私は思っている。「このラインは5.12で登れます」と教えられて登るのは訳が違うのだ。

そうは言っても、日本や海外でのフリー・クライミングの一般的なオンサイトに興味がない訳ではなく、私はトポで得られる情報を得たうえでオンサイトと言うゲームを楽しんでいる。自分が初めて触るルートをシンプルに1回で登りたいと願っている。YouTubeとか見ずに。

*

話が半分それてしまった。本題に戻そう。

本格的に現人神のトライを決めたのはたった4日前のことだった。9月から友人がトライしているのを聞いていてトライを少し考えたがトレーニングの足りないこの状態で果たして大事なオンサイトトライをするべきなの

か迷いがあった。そんな中、北平さんから完登の報告と共に仕事前の早朝にビレイをしてくれる事を快諾してくれて現人神へのトライが決まった。残された時間はあまりに少ないけどこの状況でできることは、全てしようと決めた。翌日から4時に起床して朝風呂→体操、ストレッチ、友人のホームジムで朝から被った壁を登りだした。強傾斜になると恥ずかしい位に体が動かずトレーニング不足を痛感した。「本当に現人神をトライする資格などあるのだろうか？」

トライ前日はアップ用のボルダーを実際に確認しながら瑞牆の早朝に慣れようと思っていたが、いっそのこと取り付くことにした。ロープソロでルーフの付け根まで登り、テンションかけずにクライムダウンしようと思いついたのだった。コンペのルールでは失格だけど、私には関係ない。クライミングはテンションをかけなければ

ばオンサイト継続中なのである。私はギュリッヒ先生の「フリー・クライミング上達法」を読んでから完全にそう思っている。

慣れないロープソロに手間取りながらスラブをランナウトしていく。無事、スラブを登り終え、少しだけルーフ部分のクラックに踏み込んでカムを設置しようと思いつき戻りつしながら、ルーフ部分にカムを2つ決めた。絶対に落ちたくないので力が入り過ぎ、ぎこちなくクライムダウンし軽く吠えながら何とかこなし。慎重にクライムダウンし終え、取り付きで時間を見ると信じられないことに登りだしてから2時間が経過していた。心身ともに強烈に疲れている。

家に帰ってリフォーム作業をやって、また明日ここへ戻ってこよう。

いよいよトライだが、紙面が尽きたので続きは次号で。

映画紹介



「アルピニスト」

(原題:「THE ALPINIST」)



主人公マーク・アンドレ・ルクレールの事は試写会に行く前に知人たちから情報を仕入れたが、流石に細かい登攀歴までは解からなかった。一寸気が重かったのはエンドが判って居る事。

クライマーのドキュメンタリー、一寸想像がつかない、山の本は読まず、映像も殆ど見ないので、「昔見た山岳映画？みたいなもんかな？」くらいの認識で出掛けたのだが・・・映像の美しさ、視点の角度、撮影技術の進化に驚くばかり、其れに加え、登っている本人の卓越したクライミング技術、精神力？見ていて思わず力が入るシーンの連続だった。「カメラが邪魔だろうな」つい余計なことを考える、集中していて気にならないか。

「すべてはクライミングのため」の生活、実践している若者はいるが、やがて去っていく、中々継続して同じ生活を維持できる人は少ない。

登山とは？クライミングとは何か？そんなことを考えながら登っている人は希であろう。みんな楽しいから登っているのだと思うのだが、そんな中に極限の中でしか喜びを見出せない人々がいる。自分の喜びのためだから、記録は必要ないし、遊びだから、死ぬかも知れない事を平気で出来る。

多かれ少なかれ山登りは同様のリスクを負うが、商

業登山全盛、アルパイン・スタイルの定義もあやふやな昨今、考えさせられる1本であった。

「頂上に登るのが楽しいのではなく、登ることが楽しい」のではなかったか？

理屈はさて置き、彼の登っている映像は美しい、其れだけでも見る価値はあると思う。自由でクラクラする遊び、事故は減らないけど、山に向かう若者が居なくなることは無いだろう。



『アルピニスト』

7月8日(金)よりTOHOシネマズ シャンテ他にて全国公開

©2021 Red Bull Media House. All Rights Reserved.」

国際・AC委員会 岩崎

鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動

21世紀に入って地球温暖化が大きな問題となり、その対策がクローズアップされています。2015年の国連サミットにおいて17の国際目標(持続可能な開発目標:SDGs)が採択され、自分たち山岳関係者にとっては目標15の「陸の豊かさを守ろう」が大きく関わり、それをどう活動に結びつけて行くかが課題となっています。

鹿児島県山岳・S C連盟自然保護委員会(以下「委員会」)の直近の活動としては、令和3年6月13日いち串木野市の冠岳(カンムリダケ)にて清掃登山を実施、4団体22名が参加しゴミを収集しました。ゴミの量は以前と比較して少なくなっており、登山者への啓発が行き届いていることを実感しました。また、令和4年2月13日には県民の森・長尾山(ナガオザン)にて清掃登山を実施する予定でしたが、コロナ感染症に対するまん延防止等重点措置の発令下中止しました。今年度の委員会の事業計画にも八重山(ヤエヤマ)、蘭牟田(イムタ)外輪山での清掃登山および学習会を組み入れています。

私事になりますが、登山歴約40年余り各地の山々を登り山の荒れた地肌を実感する中、19年前に鹿児島県農政部の企画で「山学校」が開設された際に県の森林インストラクターの資格を取得、森林ボランティアの会を設立して現在まで活動しています。年6回ほど森林整備等を実施、少しは森林の育成に寄与していると自負しております。

私たちが関わるフィールド「山岳地」での①登山道の整備、②植林作業、③間伐等の活動を継続的に実施していくことは日本国土の7割をも締める森林を守っていくことであり、すなわちSDGs目標15「陸の豊か

さを守ろう」に繋がる活動であると思います。

委員会では、自然保護指導員だけではなく登山愛好者、森林ボランティア等々、いわゆる「山屋(ヤマヤ)」を巻き込んで、森を守る活動を益々充実させていきたいと考えています。

自然保護指導員の高齢化による活動の衰退が各地で問題となっていますが、若い指導員を育てていくことと併せ、「山屋」を私たちの森を守る活動にどう巻き込んでいくかが山岳地での様々な問題を解決する鍵になると思われます。それほど多くの「山屋」が存在し、きっかけさえあれば最前線に立って活動してくれるものと思います。

今後とも、森の大切さ、森の美しさを一般の方々に広く伝えていくとともに、日本の山岳、殊に森林を守る活動をしていきたいと考えております。

最後に詩人谷川俊太郎の「木を植える」の詩を添えます。植林の大切さが伝わってきます……

木を植える

それはつぐなうこと

わたしたちが根こそぎしたものを

木を植える

それは夢見ること

子どもたちのすこやかな明日を

<中略>

木を植える

それは知恵それは力

生きとし生けるものをむすぶ

(鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟
自然保護委員長 下内幸一)

寄贈図書

健康体づくり事業財団	「健康づくり」2022年5月号 No.529	会報	北海道山岳連盟	「60周年記念誌」	記念誌
特定非営利活動法人日本トレッキング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.88	会報	(公社)東京都山岳連盟	「玲峰」Vol.90・91	会報
COREAN ALPINE CLUB	「山(山)」2022年4月号 Vol.272号	会報	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」5 2022 No.568	会報
福岡山の會	「せふり」No.410	会報	愛知県山岳連盟	「愛知連連ニュース」第444号	会報
星野 吉晴	「ハケ岳 刻の箱庭」	寄贈本	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」6月号 No.1051	雑誌
(株)ネイチュアエンタープライズ 岳人編集部	「岳人」6月号 No.900	雑誌	(独)日本スポーツ振興センター	「Journal of High Performance Sport」Vol.7, Vol.8	雑誌
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第659号	会報	(公社)日本ナパール協会	「会報」2022年春号 No.260	会報
市立大町山岳博物館	「市立大町山岳博物館 研究紀要」第7号	研究報告	東京野歩路会	「山嶺」Vol.99 No.1107	会報
(公財)日本スポーツ協会	「Sports Japan」Vol.61	会報	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第492号	会報
共栄書房	「ボランティア活動の責任」	寄贈本	(公財)日本オリンピック委員会	「第32回オリンピック競技大会 日本代表選手団報告書」	研究報告
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2361号、第2362号	新聞	おいらく山岳会	「山行手帖」No.750	会報
ベルニナ山岳会	「ベルニナ」第73号、第74号合併号	会報	新潟山岳協会	「新山協ニュース」第360号	会報
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2022年5月号 No.387	会報	御坂山岳会	「御坂層」御坂山岳会創立72周年記念誌	記念誌
やまびこ山想会	「やまびこ」第199号	会報	(公社)日本山岳会	「山」2022年5月号 No.924	会報
愛知山岳連盟	「愛知連連ニュース」第444号	会報	(公財)日本スポーツ協会	「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック2022年版」	広報誌

- 日時：令和4年4月14日(木)
14:00～16:45
○場所：JSPSビル3F会議室No.3とWebのハイブリッド会議
- 出席者：丸会長、亀山副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、青山、水村、水島、野村、安井、小竹、笹生、原各理事、中島、古屋各監事
- 欠席者：小日向、高野副会長、六角、栗田理事
- 同席者：赤尾浩一事務局長

1. 開会 2. 会長挨拶

ゴールデンウイークの本格的な登山シーズンが近づいてきたが、各所で小さな事故が発生している。今後も減遭難に向けてお力をいただきたい。一方で、山岳スキーや国内クライミングレースのスポンサー探しや人材のリクルートを行なっている。IFSCの総会へ参加し、最新の状況を把握できた。パラクライムについてもロサンゼルスオリンピックで開催されるとのことで、日本パラクライミング協会にその旨伝えている。今後も、皆様のご協力をお願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数24名中20名出席
監事数2名中2名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2以上))

4. 議長選出

会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)
ホストは小野寺専務理事が務める。

6. 議題

議案第1号 議事録の承認について

事前送付された2021年度第13回理事会議事録に関して全員異議なく承認された。

議案第2号 定款の変更と令和4年度の役員一部改選について

亀山副会長から配布資料を基に定款の変更について次の内容で提案された。

①第21条(1)に規定されている【理事は20名以上25名以内】を、【理事は20名以上30名以内】に変更すること。

②役員選考委員会の設置ならびに役員選考委員会のメンバーの承認。

以下のような意見が出された。

▶理事を増やす理由は何か。委員会が増えたからか。前回役員の変更があって、1年たったが、その結果を踏まえて足りないということか。

▶委員会が増えたからというよりも、事業の拡大やガバナンスコードの観点から定年制の導入や、ダイバーシティの強化をしつつ、いろいろな知見や才能を持った人に理事として加わっていただき、早く業務に慣れていただきたい等の理由がある。役員選考委員会メンバー7名には、顧問、顧問弁護士、理事、監事、等が含まれてお

り、バランスはとれていると思う。

▶JMSCAの事業の中身が変わってきて仕事も増えてきており、山岳スキーに関する業務も増加しているの、理事も増やして円滑な業務運営が必要と考える。

▶理事増員について異存はありません。また選考委員会を設置して、きちんと選定、変更しようというのはガバナンス上望ましい形と思う。その後、採決に入り以下の結果となった。

議案1 定款の変更

第21条(1)【理事は20名以上25名以内】を、【理事は20名以上30名以内】に変更することについて

棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成19名で総会に諮る事が承認された。

議案2 役員選考委員会の設置ならびに役員選考委員会メンバー7名について

棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成19名で承認された。

監事から、指摘があり、定款の変更ということに統一することになった。

議案第3号 JMSCA役員定年制等検討会議答申について

小野寺専務理事から、配布資料を基に答申内容が説明され、就任時70歳未満、再任上限10年というのが基本枠組みであり、併せて、補足説明がされた。

その後、以下のように答申の背景の説明と、意見交換がされた。

▶こういう議論、検討や見直しが発生した背景、目的等をうかがいたい。

▶ガバナンスコードの要請(具体的には、原則2の3項に役員の新陳代謝の仕組みを設ける、理事の年齢、再任の制限等の基準を設ける等)から、会長の諮問を受けて、プロジェクトチームが発足され、アンケートを実施、その結果を受け、検討にいたった。その答申が今回の内容になる。

▶当内容は、定年延長や、働く人の高齢化、厚生年金の支給延長など世の中の流れに逆行しているのではないかと。定年を短くするのはなく+5歳(就任時75歳)くらいにした方がよいのではないかと。また、任期も限定(10年)しないほうが良いのではないかと。

▶定年制により、役員が若返ることは良いが、協会としての運営が支障なくできるのかという点と、協会の役員として貢献してきた人の知見や見識を生かすために、社会貢献できる仕組みがあったほうが良いのではないかと考えるがどうか。

▶ガバナンスコードの考え方はいり入れた方がよいが、細かい数値にこだわる必要はないともいわれている。

▶仕事をしている現役の方に役員をお願いすることは負担なので、時間のある世代が少しでも手伝いをした方がよいので、上の方に余裕を持った年齢制限が良いと思う。

▶ガバナンスコードで数値目標を明確にしているのは良いと思う。ただ、特殊業務(例えば経理業務等)で、経験が必要とされる業務を遂行する人は、継続できるようにしたほうが良い。70歳と決める必要はなく、もう少し幅を広げてはどうか。各委員会メンバーの5年の再任についても見

直した方がよいのではないかと。

▶今回の答申は、会長からの諮問を受け調査した結果なので、拘束力はない。定款に当内容を載せるならば総会決議事項になるが、役員選考規程に載せる形で対応するならば、検討の継続ということによりよいと思う。本日の協議内容は、恒石諮問委員会委員長にも伝えるが、答申を受けて、引き続き理事会の中で議論を深めるということによりよい。

▶今後の日程としては、来年6月の役員改選に間に合わせ総会で承認を得るために、今年末には、役員選考規程に反映させるというスケジュール感が現実的ではないかと。

丸会長からの補足説明

皆様のご意見は、ごもっともと思う。一方で、複数の伝統的な協会では、役員の新陳代謝がされず、大変な状況がおきていると聞いている。その結果、ガバナンスコードで社外役員や、女性役員を何割にするといった要請がきている。また、無給でやっていただける方や、IF(国際連盟)とのつながりを維持継続できる方を非常勤で探す難しさ等もあり、ガバナンスコードの内容が変更される可能性はあるが、現時点では、当ガバナンスコードを順守せざるを得ないという状況である。

小野寺専務理事から

いろいろな意見があると思うが、今後の進め方として、今回の内容を会長にフィードバックして、必要ならば、もう一度会長からの再諮問という進め方でどうか。この進め方について採決をとり、以下のようになった。

反対、棄権ともゼロ、19名全員が賛成となり、承認された。

議案第4号 予算編成方針文、一部訂正について

濱田常務理事から、配布資料に基づいて「協賛金や受取補助金等が予定通り受領できない事が確実となった場合には、事業を延期や中止することが求められてくる」、「予めスポーツクライミング競技や強化事業に優先順位を付し」という文面に変更したい旨の提案があり、この変更について採決を行った。

反対、棄権ともゼロ、19名全員が賛成となり、承認された。

議案第5号 2022年度総会開催と次第について(報告第10号と兼ねる)

小野寺専務理事から、6月19日(日)に、JAPAN SPORT OLYMPIC SQUAREの部屋(予定)で、ハイブリッド方式で、理事会で承認を経た議事、報告内容で開催することの提案があり、採決を行った。

反対、棄権ともゼロ、19名全員が賛成となり承認された。

議案第6号 特定費用準備金等取扱規程について

濱田常務理事から配布資料を基に以下の2か所の変更点の説明がされた。

①第6条4項、第7条4項で、「取崩しを行うときには、理事会に付議し、その決議を得なければならない」という文面の追加。

②特定費用準備金等取扱規則細則第7条の取崩し手続きで、「理事会にて取崩しとその金額の承認を得る。」という文面の追加。

監事から、第6条4項、7条4項の文面の追加で取崩し全般のことを言いつつ、この前文3項の目的外に限定した取崩しに言及している文と矛盾が起きなければよいと思うがどうかという質問に対し、特に内容は矛盾していませんので、この内容で問題ありませんとの応答があった後に、当変更の採決を行った。

反対、棄権ともゼロ、19名全員が賛成となり、承認された。

議案第7号 審判員規定の変更について(理事会承認)

山本理事から配布資料を基に、「スポーツクライミング競技審判員規定」の第2条の文面を、18歳から16歳に変更すること、(付則)に改定履歴を追加することの2点の変更が説明された、その後以下の質疑応答がされた。

▶審判業務自体は、法律行為になるのか(けがや損害が発生した時の損害賠償責任の対象となる)どうかをうかがいたい。

▶法的責任は審判委員長にあり訴えられるが、審判員自体は当事者であっても訴えられない。現実的に、年齢を引き下げたとしても問題はない。今回対象になるのは、C級審判の人で、実際の責任は審判長や、大会主催者が負うことになる。これとは別に、飲酒に対してのアルコールチェック、前日の制限など、今後どう対応していくかの方向性を明示する必要がある。当変更についての採決をとり、

反対、棄権ともゼロ、19名全員が賛成となり、承認された。

議案第8号 ウクライナ支援にかかるI O C連帯支援金協力について

小野寺専務理事から、I O Cからの協力要請で、1口5万円を寄付という形でよいかどうかの提案がされた。特に異議はなく、反対ゼロ、棄権ゼロ、19名全員が賛成となり、承認された。

7. 報告

報告第1号 3月度月次決算報告について

小野寺専務理事から、事務局での取扱増により業務に遅れが発生しており未完成。来週、相良常務理事に渡す予定と説明があり、今回の報告項目から除外された。

報告第2号 L Y Cについて、および報告第12号 コロナ対策について

村岡常務理事からコロナ対策の変更について配布資料を基に説明された。

3月までは人数の上限があったが、大声無しで感染防止安全計画を策定した場合には上限なしとなった。また、入場時には、ワクチン3回実施証明または、COVID19陰性証明(PCR72時間以内、抗原検査24時間以内)があればよい。

報告第3号 全日本登山大会高知大会中止決定について

小野寺専務理事から、配布資料を基に説明された。開催できない理由と、発生した費用の負担をJ M S C Aに依頼してきている。地方岳連ができないと言ってきたらやむをえないということで、それ以上、何とかやってくれとまでは言っていない。今まではどのように対応されていたのか。以下のような意見が出された。

▶地元の判断に任せるしかないのではと思

う。高知県はコロナの環境下で、あえて実施することに積極的な理由がないかもしれない。

▶以前、京都で行ったときには、一般者も取り込み、大会としては成功している。単一県にこだわらず、ブロック単位での開催も視野にいれ、新しい試みも試してはどうか。

丸会長から

地方岳連の弱体化が背景にあるかもしれないので、高知県の状況を含め四国ブロックの状況を調査しまとめて、会長及び古賀常務理事あてに報告をお願いしたい。

報告第4号 ガバナンスコード適合審査の実施について

小野寺専務理事から、ガバナンスコードについて報告義務は毎年あるが、審査は4年に1回で、今年はその審査の年で、7月29日(金)までに様式1, 2, 3の提出が必要となっている。山口理事からも、準備を進める旨の報告がされた。

報告第5号 駒沢体育館休館等について

小野寺専務理事から、来年のB J Cは駒沢だが、そのあとは別途探す必要があること、村岡常務理事から、調布をその候補として検討している旨の話があった。

報告第6号 山岳スキーWC報告について

小野寺専務理事から、3月15日から22日までの出張報告がされ、WC大会の概要(Individual種目、Sprint種目、用具等)や、F F M Eと個別に打ち合わせた内容の説明がされた。併せて、ヨーロッパの選手や国との違い等の説明がされた。

報告第7号 I F S C総会報告について

水村理事から、3月17から19の3日間の出張報告がされ、東京オリンピックでの実施状況や、パリ大会の概要、ロサンゼルス大会の予選の進め方の説明、I Fから定款の変更(スポーツクライミングからクライミングに名称変更)提案がされたが、反対者が多く、議論は、翌年に持ち越しとなった。また、ロシア、ベラルーシの資格停止が議決された。また、安井理事からの以下の補足説明があった

1. 2021年東京オリンピックでは、平均80,000回再生された。2. 2022年、パラクライミングのWCを3回行う予定。3. ヨーロッパのメディアは、ディスカバーチャンネル、ユーロスポーツ等が56か国で見れるようになったが、有料でないと見れないスポーツになってきているという報告がされた。

報告第8号 委員会のメンバーについて

登山医科学委員会は、野村雄大氏を常任委員として追加、遭難対策委員会として添付メンバーを選出、指導委員会は前年と同じ、UIAA委員会は、常任委員として中島隆之氏を追加し、常任理事会で承認されたことを報告した。

報告第11号 審判・セッターの資格審査について

C級審判員 合格者 77名(88名受講) 添付参照 昇格者(C→B級) 丹羽完治

セッターについて

研修会 ①松澤修斗②谷丸蓮③辻谷清人 ④石渡智也⑤鬼木哲也 検定会 ①山下和彦②長迫明③小西大介

昇格者(C→B級) 渡辺海人

以上が、常務理事会で承認されたことを報告。

報告第13号 S C競技規則国体規則共通一部改定について

村岡常務理事から、先月の説明と同様、S Cの規則変更にともない、国体の規則、規定を変更し、常務理事会で承認された旨報告された。

報告第14号 キャッシュフローについて

濱田常務理事から、配布資料を基に、キャッシュフローの枯渇を事前に察知するための仕組みについて(概要)、Monthly対応策のイメージの2点の説明がされた後、監事から、Monthly対応策の①月初キャッシュ残高、②月初与信枠残、③予算執行予定額、④収入予定額、⑤月末キャッシュ等残高とすると①+②-③+④=⑤になるが、月末数値⑤と、翌月初数値①が一致するようにすると良いと思うとコメントされ、濱田常務理事から検討する旨の返答があった。

報告第9号 全山遭難幹事会議事録について

報告第15号 公認大会申請(鳥取、愛媛)について

報告第16号 指導者資格認定について

報告第17号 セッター検定会について

報告第20号 東北6県協議会総会に2名出席について

報告第21号 役員派遣について

上記は、今回の配布資料を読んで、質問があったら担当者に聞くようにと伝達された。

報告第18号 SDGs推進委員会進捗について

前田理事から、共有画面を基に説明があった。

報告第19号 大韓山岳連盟60周年祝賀会(4/22開催予定)について

小野寺専務理事から、メールで会長の挨拶状を送付済、4月17日までに丸会長のビデオを送付予定と報告された。

その他報告事項

村岡常務理事から

2023年I F S C WC八王子のプレアグリメントについては、丸会長とマルコ会長で調整中。I Fマーケティングの部分は、電通とシンカで調整することになったとの報告があった。

安井理事から

マイリンゲン大会の参加者のなかで5名の選手のコロナ陽性が発生した。選手名は公表せず、本日の定期メディア報告で伝達予定。意見等あったら個別に連絡くださいと報告があった。

小野寺専務理事から

4月末日で、高野副会長が辞任するとの報告があった。

古賀常務理事から

山岳4団体の専門部会で、登山計画書ツールでもある“コンパス”の使用促進を進めることになっているが、個人情報漏洩したときの責任問題が発生する可能性が指摘された。当問題について、例えばZoom会議を通じ、顧問弁護士と問題点を共有し、どう責任が発生し、どう対応したらよいかの法的観点からの助言をいただきたいという希望が出された。

JMSCA保険(日山協山岳共済会)のお話し

今月は Mountain World がお休みのため JMSCA 保険のお話をします。

皆様は、JMSCA 保険がこんなに安いことを知っていましたか？

JMSCA の保険は、日山協山岳共済会という共済会に加盟して、MS&AD 社の保険に入る団体保険のために通常より 46% も安い保険料で加入できるんです。

ハイキングコースの 1 例を紹介すると

団体の保険の共済会費 1,000 円をプラスしてもこんなに安いんです。3,620 円で 1 年間安心して山に行けるのです。

■ハイキングコース



ピッケルやアイゼン、ロープ等の登山用具を使用しない登山をご希望の方向け。

保険タイプ	I	II
死亡・後遺障害	200 万円	400 万円
救援者費用	500 万円	500 万円
日常生活賠償	1 億円	1 億円
傷害通院保険日額	1,500 円	3,000 円
年払い保険料 (46%割引後) 共済会費 1,000 円含む	3,620 円	7,930 円

また、スポーツクライミングコースの 1 例を紹介すると

■スポーツクライミングコース



屋内外の人工壁におけるクライミングが対象です。

自然壁の場合は、登山コースに加入してください。

保険タイプ	CL1	CL3
死亡・後遺障害	200 万円	200 万円
救援者費用	300 万円	300 万円
日常生活賠償	1 億円	なし
傷害通院保険日額	1,000 円	1,000 円
傷害入院保険金日額	2,000 円	2,000 円
年払い保険料 (46%割引後) 共済会費 1,000 円含む	5,690 円	4,730 円

年間 5,690 円で、クライマーだけではなくありません。小学生のビレイヤーであるご両親も加入して、いつもの練習場所以外のジムでも保険が使えるのです。日常生活賠償も含んでいる CL1 がおすすめです。いかがでしょうか、JMSCA 保険に加入して安心して練習しませんか？

お問い合わせ先

日山協山岳共済会山岳共済事務センター

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

メールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ホームページ <https://sangakukyousai.jp>

(共済委員長 蛭田)

「ガンバ!負けるなガバちゃん」

作者:未来



表紙のこぼれ

クーンブ氷河に懸る悪絶剣呑なアイス・フォール帯を抜けると、次はウェスタン・クウムへの入り口にかかる。

ウェスタン・クウムは、長さ5kmもある氷河の盆地で、エベレスト、ローツェ、ヌプツェの山稜に三方を取り囲まれている。下方は巨大なクレバスが迷路のように横たわるため、ルートは右に左に大きく迂回させられるようになる。何度かのトラバースでヌプツェ側に寄ると、ようやく南西壁の全容が大きく望まれるようになる。

冬の寒々としたクウムは静寂そのもので、まさしくスイス隊によって命名された「沈黙の谷」のほうが相応しいように思われた。

(写真撮影 尾形好雄)

編集後記

UIAA(世界山岳連盟)のスティープさんより青山氏に7月22~24日の査察は実行するので安心してほしいとのメールが6月11日に入りました。コロナ過の時世で日本国内の入国状況およびイギリスの出国状況が日々変わり、またソ連とウクライナの問題も加わり、7月の来日は難しいと思っていましたが、青山氏の長年のお付き合いや、献身的なメールのやり取りで、来日が確定しました。イギリス人のスティープさんとメールで意思を通じ合うのは、こちらの思惑と全く違うように取られることもあり神経を使うと聞いていました。まずはありがとうございました。(蛭田伸一)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第639号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和4年6月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ

岳人

特別編集

夏山 2022

日本アルプスの名峰・名ルート

発売中

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 特別価格1,200円(税込)



年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格 12冊 10,560円(税込)
年間購読なら 12冊 1冊分おトク! 9,680円(税込)
11,616円(税込) → 10,648円(税込)

年間購読特典

わずか32g! 岳人コンパクトマルチランブ

さまざまなシーンで活躍する超軽量ヘッドランプ。
※単4形乾電池1本含む重量

全国2000カ所以上でのご優待! 岳人カード



全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからお申込みいただけます